

てたものではなく、東北の某地には数億トンに上るすばらしい無煙炭田のあることが分つたと云ふし、又某地には吾人の想像に絶する多量の鐵鑛埋藏があると云ふことも聞く、これらの活用とか或は別の方法でもよいが内地に於て滿洲より廉い鐵がつくれぬとは限るまい、これは一に鐵鋼協會々員今後の努力に待つべきものとする。

滿鮮を旅して

菊池 麟平

滿鮮各地にあつて生産報國の第一線で働いてをられる同胞各位の眞摯な姿を見た時、そして一例には過ぎないが滿鐵 1 萬 km 完成の日までの殉職者が約 1 萬を算すると聞いた時、私は

明治天皇の次の 2 つの御製を奉讀して深い感銘を覺えた。

をちこちにわかれますも國を思ふ人の心ぞひとつなりける

國をおもふみちにふたつはなかりけり軍の場にたつもたぬも
鐵鋼方面の視察旅行の收穫を平面的に整理してみると、日本が鐵鑛と原料鐵(スクラップをも含む)の不足に足掻いてをる姿を如實に見、その結果が各地各様式の貧鑛處理法となり、直接製鐵法となつて、前記資源不足の解決へと勇ましく乗り出してをるのである。貧鑛處理と直接製鐵法とはその目的とする所は異つてゐるが、結果論的に見て相一致してゐる場合もある。次表に最近我が國に於て實施され始めた製鐵法を列記する。貧鑛處理であるものもあり、富鑛のみに限られたものもあり、貧富兩鑛を兼ね得るものもあるが特に區別しない。又製品の品位純度等にも差異があり、操作の難易、生産費の高低、設備費の高低等々種々批判比較すべき點はあるが、寧ろこれ等の檢討は今後の問題となるべきものであり、その問題の解決に當つての當事者當局者の執る可き態度によつて始めて日本が或ひは興亞プロックが鐵鑛と原料鐵との自給自足に成功し得るのである。

廻轉爐法	クルップ法	バツセー法	日下法	水素還元法
大華鑛業法	本溪湖法	電氣爐法	電氣分解法	
古式法	電擊法			

(この場合鞍山又は清津日鐵におけるような鑛石の濃縮法は載せなかつた)。

以上

滿鮮を旅行して

絹川 武良司

先般日本鐵鋼協會の奉天に於ける講演大會に参加し滿洲、朝鮮等の工場視察を致しましたが前回の日本鐵鋼協會の時に比較して其發展の目覺しいのには全く驚きました。鞍山に於ける昭和製鋼所、其他の工場の躍進的發展、奉天鐵工諸工場、北鮮方面の諸工場等の發展振りは内地で中々見られない素晴らしいものがありました。新京の都市計畫等も感心させられた一つです。

扱てそれ等の素晴らしい發展振りを見て感じさせられた一つに新しい方法の上に立てられた工場の幾かあります。それは平時ならば到底經濟的に成り立ち相もない工場(全工場の設備が全部新しい方法に立つてゐると言ふ譯では勿論ないが)が單に新しい方法であると言ふ丈で時局の波に乗つて設立せられてゐるかに見受けられたものが少なくなかつた。果して斯様なことでよいものであらうかと考へさせられました。勿論上にも述べた様に眞に新しい方法に立脚してゐる部分は全體の一部分であるから平時になつたら其部分丈棄てる覺悟であるのかも知れないが……

第 2 に考へさせられた點は、工場其他の計畫なり、運用なりを見るに果して祖國日本の爲めを眞に思ふて經營してゐられるであらうかと言ふことに多少疑をもたされるのです。結局“王道樂土”は滿洲人の爲めの“王道樂土”で、祖國日本は滿人を“王道樂土”に住はせる爲めに重大な負擔を荷はせられてゐるのではないか？ 果

してそれでよいものであらうか？ と言ふ點であります。

單文、意を盡しませんが私と同様に感ぜられた方も少くないかと思ふ。そしてそれ等の方々ならば私の書いたこともわかつて頂けるかと思ふ。

滿洲見學の感想

小島 由之

斯界の御歴々の御伴をして本大會に参加した私が先づ目指した點は滿洲へ進出した中小工業者が現在如何に發展して居るか、乃至は現在鐵鋼配給統制に依つて製産制限を慨きつゝある内地中小鐵工業者の滿洲轉出に對して現地が如何なる地歩を與へて呉れるかと言ふ期待でありました、然しながら鞍山、奉天と見學スケジュールが進み二三現地の人の話を聞くに及んで此れはどれも諦めなければならぬ物かと言ふ事を悟つたのでありました。

即ち各大工場は餘りに一貫作業設備が整ひ過ぎて居て新に其の手足となつて働く可き付帯工場を育成す可き必要を感じなくなつて居る、一方材料鐵鋼の方は内地と大差無く國策の線に順應した統制が徹底して居る。内地で行詰つた業者は此處でも伸びる途が無いと言ふ譯であつた。自分の期待に見切りを付けた私の目に映つた。滿洲の要求して居る物としてはどうも鐵鋼關係では面白くない。切實に體驗した旅館拂底から見て今後益々増加を豫想される旅行者乃至新任して來る人々の爲に旅館やアパートをドンドン供給する必要が有ると思はれる。設備は何も華美を要しないが清新な氣分を與へる物でなくてはならない。又多數の産業戰士に明朗高尚な娛樂機關を供給する必要が有る。家族的な慰安設備がドンドン造られなくては行けないと感じられた。

此等が結極間接に各大工場へ奉仕する途にも通じるのだと矢張り身分相應な認識を得た心算で居ります。「此れから一二年の間なら聞く人に迷惑も及ぼすまい」と折に觸れて廣告致します。大昭和製鋼所の遠大な計畫。扱は撫順、清津の驚異的治績等々に至つては只々有難くて頭を下げて置くより仕様のない次第でした。此う言ふ私等に迄萬端御懇切に御世話下さつた現地役員諸彦。特に昭和製鋼所の方々の御骨折りに對しては有難く厚く御禮を申し上げます。皆さんの御蔭で新興滿洲國の潑刺たる飛躍振りを見聞し曲りなりにも大陸經營の一端を覗ひ得ました事を感謝致して居ります。

滿洲に旅して

谷山 巖

此度滿洲に於ける鐵鋼協會に出席して先づ第 1 に感じたことは、皇軍の威力である。いやすめらぎの御稜威があまねく行き互つて居ることである。匪賊が横行したといふのも今は昔の語り草であつて、只鐵條網にその殘骸を止めて居るのみである。例へば弓張嶺の鐵山へ水盃を交はして探檢に行つたとか、本溪湖の附近にて戦慄すべき事件が起つたとかいふことは遠い昔のやうな話に聞えるのである。これは偏へに君の御稜威によるものであるが、又幾多勇士の奮闘努力されし跡が偲ばれるものである。即ち旅順、沙河の大會戦は元より北大營や南嶺等の戦跡を訪れては尋き勇士の靈に對し自ら首が垂れるのである。實にこれら先人の偉業により帝國の生命線は確保せられたといふ感を強くしたのである。

次に滿洲には製鐵事業に適する諸原料が極めて豊富なる故に、製鐵業には最も恵れてゐるのである。既に鞍山、本溪湖等には大規模の製鐵事業があり、尙ほ現在擴張されつゝある故に、甚だ心強く感ぜられたのである。内地の銑鐵及び屑鐵を初めあらゆる材料の入手に血眼になつて騒いでゐるのにくらぶれば隔世の感があるのである。

然し滿洲は大陸の氣分に支配されて人間のスケールが大きい故

に、大がかりな事業即ち熔鐵爐及び平爐工業の如く大規模なものは滿洲に發達させた方がよきも、精密工業例へば特殊鋼の如きは内地に發達させた方が適當のやうに考へらる。

滿洲の工業の特長は識者の指導によるものであらうが、或一つの大工場を中心としてその周圍に大工場の製品又は材料の關係的小工場が衛星的に設けられてあることである。これはお互に指導鞭撻されて健全なる發達を遂げるであらうと思はる。又奉天の鐵西工業地區は實に躍進滿洲の工業の將來を暗示するものであつて、近き將來には工場デパートの大偉觀を現出するであらう。

最後に材料不足の狭き内地に於てお互に競争ひつゝあたふた精力を消耗するよりも、廣き滿洲の天地に驥足を延ばして活躍すべき時代ではなからうかと考へらる。

滿洲大會に於ける感想 根本 茂

建國以來僅かの歳月を以て、滿洲國の各種産業が飛躍的發展を遂げつつあるは視察者をして驚異の眼を瞪らしむるに足るものがある。殊に吾等重工業關係者として、同工業の異常なる發展には大いに意を強ふすると共に、關係者の努力に對し敬意を表する次第である。豊富な鐵鑛、石炭等の資源を根幹とする昭和製鋼所並に本溪湖煤鐵公司宮ノ原工場、或は撫順の油母頁岩による液體燃料工場等、大なる建設工事が一日も早く其の功を遂げて増産の實を挙げ、以て時局に對應せらるる日を待望する次第であるが、繼つて之等物資の日滿支 3 國の生産量と、其の需要を充足せしむる緊要性を想起して技術部門の責任に及ぶ時、吾人は更に新たなる覺悟を覺ゆるのである。

滿洲國に於ける各工業の躍進に伴ひ指導の技術者に不足を生じ、其の生長を阻害しつゝあるの叫びを聞くは誠に痛恨の次第であつて、恐らく滿洲國に對する認識の貧困が内地以上に本問題を深刻化せしめたるものと想像せらるるも、特に青年技術者が、此の國家的使命に向つて奮起せられむ事を切望すると共に、日滿支の 3 國を通じての之等人的資源の統制を更に高度化する事にすら思ひ及ぼす次第である。

終りに臨み滿洲大會に際して見學を許されたる諸工場と會期中に於ける會長以下役員各位の御勞苦に對し深甚の謝意を表する次第である。

以上

日本鐵鋼協會滿洲講演大會實施所感 長谷川 熊彦

滿洲に日本の學會が大會を開催する事は近年頻繁となつて來た。今年に入つて 7 月日本能率協會、8 月工業化學會、9 月日本鐵鋼協會及び日本農學會、10 月日本機械學會と連續して旅行シーズンは一杯となつて居る。日本の専門家を迎ふる事は此上ない結構な事である。即ち滿洲の現況を親しく視察し下さると共に科學的刺戟と啓發とを與へらるゝと云ふ事に於て嬉しい。然し何時の場合でも汽車輸送と旅館配當とが問題となり、現地の世話方は苦心焦慮して尙且つ豫期通りに行きかぬものである。今回も夜行寢臺車とか宿舎とかに就ては出席の方には御不自由御不滿を残した場合もあつた事と想像さるゝ。此點は委員の 1 人として恐縮の至りである。實行委員や旅館事務員は學生團體の如く一定スケジュールで全員を動かす事が最も事務的で秩序が取れるが學會諸員に對して左様にも行きかぬため多くの惱を生ずる。5 年前の大會の時と今回とを比較すると會員の参加は 2 倍半にも増加し居り他方滿洲の事情は著しく旅行者輻輳の不足を來して居るため今一層混雜するではないかと心配して居た程であつた。幸に甚しい不都合もなかつた様で聊か慰めらるゝのである。御無理かも知れぬが出席者各位には 2 週間の御不自由を止むを得ざる事とされ後日の記念思出とされ諒承されん事を御願致す次第である。恐らく此後は益々此種旅行は不自由勝となる一方で自由行動サービス豫期は至難と思はるゝ。會社重役諸氏にて滿洲に支店出張所を持たれ其事務員にサービスを命ぜらるゝ場合にては餘程手廻よくする必要があると思ふ。況や單にビュローに信頼さるゝ準備だけにては相當間違失敗を續出すると思ふ。今回の開催にて大なる不備は出席申込と共に必要金を東京本部に徴出し出席を確實にし得なかつた事と參會者に所定宿名を内地出發以前に通知し得なかつた事である。某學會では旅館室料豫約金として 5 圓を出席申込と共に徴收されて居ると聞いて居る。出席者の行動登録とか宿所其他に關し中央事務と連絡し得る如く今後は一層準備を完全にしたいものである。簡易事務にて内地開催或は外國學會は済さるゝ様に思はるゝも滿洲は左様に行なへる點が多い。

奉天の講演會に就ては心配して居つたが至極順調に進んだ事は愉快であつた。準備に就て盡力された事と設備が至極都合宜く出来て居つたためであると思ふ。

自由見學の機會を作ること 藤井 寛

日本鐵鋼協會及び滿洲冶金學會聯合滿洲大會に参加して主要なる工場設備を概観して見學しが無かつたことに就いて準備並に斡旋當局者に對し深甚なる謝意を表するものである。若しこの上意を言ふことが許されるならばこうもしたらよからうと考へる。

參加者中には見られる丈澤山の工場を見ようといふ人もあらう又 2 ヶ所でも 3 ヶ所でも緩つくり見學しようといふ人もないとは限らない。そこで工場の案内を出来る丈廣く精しく“講演大會次第”に掲載し見學に當つては例へば奉天見學の様なきは一般は此の度實際

行はれたと同趣向に多數工場を見學する。一方ニヶ所丈でも三ヶ所丈でも精しく見學したい向きの爲めにはその日一日又は日中の何れの時刻でも自由見學を許可せられる様見學工場の諒解を得置くことである。斯様にすることは見學工場の手数は著しく増すことになるが考へ様によつては見學工場としては失はれることのみでもないと思ふ。兎に角その様な冀望者は假令數は少くともそれによつて裨益せられること非常に大きく工業界と云ふ立場から言つて悦ばしい結果となるであらう。(終)